

株式会社 ハルミ

2015年度環境活動レポート

臨時版（対象期間：2015年 11月～2016年1月）



発行日：2016年2月15日

株式会社 ハルミ

環 境 方 針

当社は産業廃棄物収集運搬及び廃プラスチック、廃汚泥等を破碎・混練処理して、セメント用助燃剤に再生するリサイクル産業におけるパイオニアとして、産業廃棄物処理業を通じて、地球温暖化問題への取組みや地域の環境活動に自主的・積極的に取組みます。

1. 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。
2. 二酸化炭素排出量の削減の為に省エネルギー(電力・ガソリン・軽油等削減)に取り組めます。
3. 受託した産業廃棄物の再資源化に取り組む、リサイクル率の維持・向上を図ります。
4. 水使用量の削減に取り組めます。
5. グリーン購入に取り組めます。
6. 環境に配慮した処理に取り組めます。

制定日：2015年10月26日

代表取締役社長

隅田 佳春

I. □組織の概要（情報公開項目に*印付記）

(1) 名称及び代表者名

株式会社 ハルミ

代表取締役社長 隅田 佳春

(2) 事業所及び所在地

本社(登記上) 〒671-8079 兵庫県姫路市飾磨区今在家1103-2
 本社事務所 〒671-1241 兵庫県姫路市網干区興浜2113-10
 網干事業所 〒671-1241 兵庫県姫路市網干区興浜2113-10
 飾磨事業所 〒671-8079 兵庫県姫路市飾磨区今在家1103-2
 積替・保管施設 〒671-8079 兵庫県姫路市飾磨区今在家東荒新田1096番2

(3) 環境管理責任者及び担当者の氏名・連絡先

責任者 取締役網干所長 隅田 修 TEL：079-271-3111

担当者 取締役網干所長 隅田 修 TEL：079-271-3111

(4) 事業内容

産業廃棄物処分業（中間処理・破碎-破碎燃料化处理）

産業廃棄物処分業（中間処理・混練-混練燃料化处理）

産業廃棄物収集運搬業

特別管理産業廃棄物収集運搬業

セメント用助燃剤製造

(5) 事業の規模（2014年度実績）

*売上高 240百万円

・産業廃棄物の処分量 6,576トン

・産業廃棄物の収集運搬量 6,576トン

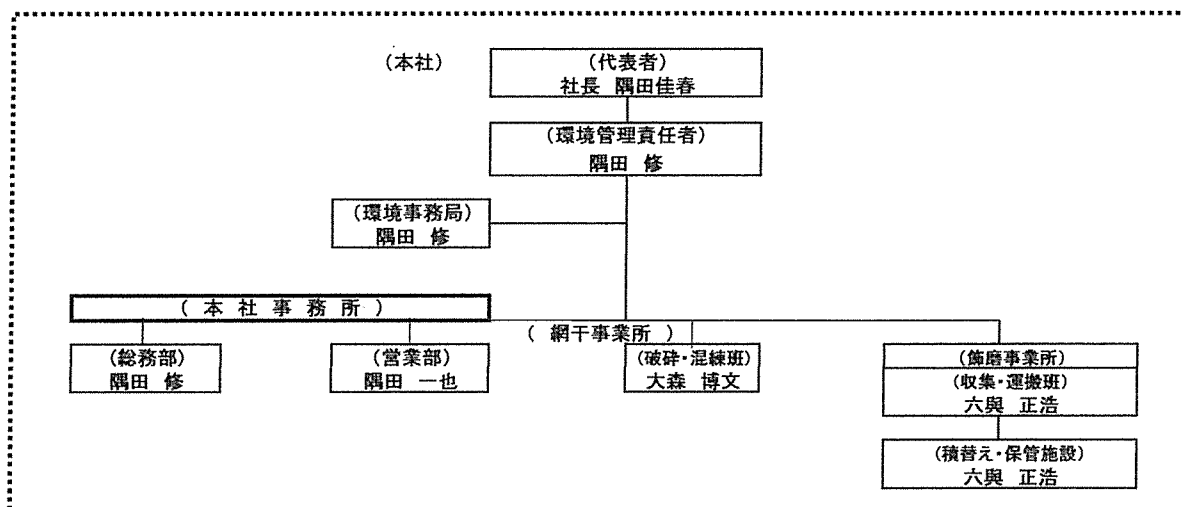
	本社・飾磨事業所	本社事務所・網干事業所	積替え・保管施設	合計
従業員（人）	7	7	0	14
延べ床面積（㎡）	442	1,778	315	2,535

(6) 事業年度： 5月～翌年4月

(7) *法人設立年月日： 平成5年9月16日

(8) *資本金： 10百万円

(9) *組織図



(10) *許可の内容

■ 産業廃棄物処理業許可
・中間処理施設

許可番号	姫路市 第 07021022937 号
許可の年月日	平成 25年 3月 5日
許可の有効期限	平成 30年 3月 4日
事業計画の内容	主として兵庫県内の事業所から廃プラスチック類及び汚泥等を収集し、破碎・混練してセメント用助燃材として供給する。
事業の範囲	(1) 中間処理(破碎) (2) 中間処理(混練)
事業の区分	(破碎・混練)
施設の種類	(1) 破碎施設 (2) 混練施設
処理する廃棄物の種類	(1) 破碎 ・廃プラスチック類 ・ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず(廃ガラスくずに限る。) (2) 混練 ・燃え殻、汚泥、廃プラスチック類、ばいじん
処理能力	(1) 破碎施設 廃プラスチック類 4.7 t/ 日 ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず 3.5 t/ 日 (2) 混練施設 76.8 m ³ / 日

■ 産業廃棄物収集運搬業許可

許可自治体	姫路市	兵庫県	岡山県	特別管理産業廃棄物収集運搬業許可 許可自治体	兵庫県
許可番号	第07011022937号	第02825057761号	第03307022937号	許可番号	第02854022937号
許可年月日	平成26年1月10日	平成26年1月14日	平成25年6月17日	許可年月日	平成26年1月14日
有効期限	平成31年1月9日	平成31年1月13日	平成30年6月16日	有効期限	平成31年1月13日
積替保管	無	無	無	積替保管	無
許可品目	汚泥 燃え殻 廃油 金属くず 木くず 廃プラ類 がれき類 ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	● ● ● ● ● ●積替・保管 有 ● ●	● ● ● ● ● ● ● ●	許可品目	汚泥 燃え殻 廃油 紙くず 木くず 廃プラ類 金属くず がれき類 ゴムくず ばいじん
					●

(11) *施設等の状況

■ 産業廃棄物収集運搬用車両

車両の種類	最大積載量	台数
4t脱着コンテナ車	4,000 kg	3
脱着コンテナ車	1,800 kg	15 箱
8tユニック	8,000 kg	4
4tユニック	4,000 kg	1
フォークリフト	2,500 kg	4
4t平ボディ車	4,000 kg	1
4t箱型ボディ車	4,000 kg	1
8t箱型ボディ車	8,000 kg	1
4tバッカー車	4,000 kg	1
大型ショベルローダー	4,000 kg	2

■(積替え・保管施設)

保管面積	保管上限	積替え保管を行う廃棄物の種類
315 m ²	34 m ³	廃プラスチック類

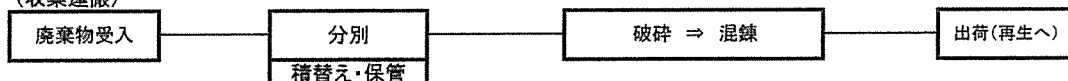
■ 産業廃棄物処分施設

・中間処理

施設の種類	破碎機	混練機
設置数量	2基	1台
処理する廃棄物の種類	廃プラスチック ガラスくず等	廃プラスチック 汚泥等
処理能力	3.5~4.7t/日	76.8 m ³ / 日
処理方式	破碎	混練

・中間処理用車両

車両の種類	最大積載量	台数
4t 脱着コンテナ車	4,000 kg	3
フォークリフト	2,500 kg	4
4t 平ボディ車	4,000 kg	1
大型ショベルローダー	4,000 kg	2

(処理工程図)
(収集運搬)

(12) * 処理実績(受託した産業廃棄物量)

収集運搬量	6,576 t
中間処理量	6,576 t

II. 口認証・登録の対象組織・活動

登録事業者名： 株式会社 ハルミ
 対象事業所： 本社・飾磨事業所、本社事務所・網干事業所、積替え・保管施設
 対象外： 無
 活動： 産業廃棄物処分業（中間処理・破碎-破碎燃料化処理）
 産業廃棄物処分業（中間処理・混練-混練燃料化処理）
 産業廃棄物収集運搬業
 特別管理産業廃棄物収集運搬業
 セメント用助燃剤製造

III. 主な環境負荷の実績

項目	単位	2014年度	2015年度
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	286,639	
電力使用量	kWh	116,003	
ガソリン使用量	L	15,253	
軽油使用量	L	72,491	
ガス使用量	kg	144	
(廃棄物排出量)			
一般廃棄物排出量	kg	0	
最終処分量	t	0	
化学物質使用量	kg	使用実績なし	
総排水量	m ³	464	

* (再生処理工程へ全量投入)
 * (再生処理工程へ全量投入)

IV. 環境目標及びその実績

(1) 中長期目標

項目		基準値 (基準年度) 2014年度	2015年度 目標	2016年度 目標	2017年度 目標
I. 二酸化炭素 排出量合計(下記項目合)	kg-CO ₂	286,187	283,326	280,463	277,601
	対基準(%)	100	(△1%)	(△2%)	(△3%)
	① 電力使用量削減	kWh	116,003	114,843	113,683
	kg-CO ₂	60,554	59,948	59,343	58,737
	対基準(%)	100	(△1%)	(△2%)	(△3%)
②ガソリン使用量削減	L	15,253	15,100	14,948	14,795
	kg-CO ₂	35,417	35,063	34,709	34,355
	対基準(%)	100	(△1%)	(△2%)	(△3%)
③軽油使用量削減	L	72,491	71,766	71,041	70,316
	kg-CO ₂	190,216	188,314	186,412	184,509
	対基準(%)	100	(△1%)	(△2%)	(△3%)
II. 廃棄物排出量の削減		kg	0	0	0
①一般廃棄物の削減		対基準(%)	100	(△-%)	(△-%)
②受入廃棄物の リサイクル率の向上		リサイクル率(%)	100	100	100
		対基準(-)	—	—	—
III. 水使用量の削減		m ³	464	459	450
		対基準(%)	100	(△1%)	(△3%)
IV. グリーン購入		実績不明	実績調査	チェックリストによる購入推進	チェックリストによる購入推進
		品目数		基準年以上	基準年以上
		対基準(-)			
V. 環境配慮 破碎処理における環境配慮 (破碎機の稼働管理-粉じん・騒音・臭気等)		稼働管理	稼働管理	稼働管理	稼働管理
		対基準(-)	維持・向上	維持・向上	維持・向上

※電力による二酸化炭素排出量は、関西電力(株)の平成25年度の二酸化炭素排出係数 0.522 kg-CO₂/kWhを用いて算出した。

*プロパンガスは他の化石燃料に対して少量であるため、削減目標設定は行わない。

(2) 試行運用期間中の実績

項 目		年 度	試行運用期間における実績			
			(2015年11月～2016年1月)			
			基準値 2014年度 (11月～翌1月)	目標	実績	達成度(%)
I. 二酸化炭素 排出量合計	kg-CO ₂		69,785	69,087	67,513	102
	対基準(%)		100	△1%	△3.3%	
① 電力使用量削減	kWh		27,787	27,509	29,932	91.9
	kg-CO ₂		14,505	14,360	15,625	
	対基準(%)		100	△1%	+7.7%	
② ガソリン使用量削減	L		3,594	3,558	3,452	103
	kg-CO ₂		8,345	8,262	8,016	
	対基準(%)		100	△1%	△3.9%	
③ 軽油使用量削減	L		17,885	17,706	16,718	106
	kg-CO ₂		46,935	46,466	43,873	
	対基準(%)		100	△1%	△6.5%	
II. 廃棄物排出量の削減	kg		0	0	0	100
① 一般廃棄物の削減	対基準(%)		100	100	0%	
② 受入廃棄物の リサイクル率の向上	リサイクル率		100	100	100	100
	対基準(%)		100	100	100	
III. 水使用量の削減	m		118	116	125	92.8
	対基準(%)		100	△1%	+5.9%	
IV. グリーン購入	品目数		実績不明	実績調査	0	—
	対基準(%)				—	—
V. 環境配慮 破碎処理における 環境配慮 (破碎機管理・分じん・騒音・臭気)	—		稼働管理実施	稼働管理実施	稼働管理実施 済	—
	対基準(—)		(—)	(—)	(—)	○

注) 評価欄 ○: 達成、△: やや未達成、×: 未達成

※ 電力による二酸化炭素排出量は、関西電力(株)の平成25年度の二酸化炭素排出係数 0.522 kg-CO₂/kWhを用いて算出した。

V. 環境活動計画及び取組結果とその評価、次年度の取組内容

◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

取組み計画	達成状況	評価結果と次年度の取組内容
二酸化炭素排出量合計		(目標達成)
下記、各取組計画による。	○	電力使用量は増加したが、ガソリン・軽油使用量が削減
		目標を達成できたために全体として達成出来た。
電力使用量の削減		(目標未達成)
・空調温度の適正化(冷房28℃ 暖房20℃)	△	年度当初より基準年度実績値を超過する使用量が継続しており、試行運用開始直前において既に基準年実績累計も超過し、試行・運用期間中も基準年実績を超過することとなり、結局、試行運用期間において削減目標が未達成となった。この原因は廃プラスチックの入荷が増加して破砕機の稼働率がアップした為である。効率的な破砕機の運転・整備対策を実施し、その経過を観察して必要に応じて更に、是正策を実行して以て、年度目標達成を図りたい。
・生産工程の待機時間短縮	○	
・昼休みの消灯	◎	
・不要照明の消灯	○	
・OA機器の省エネモード設定	○	
・生産設備のムダ防止	△	
・圧縮空気洩れの定期点検・修理	△	
ガソリン使用量の削減		
・アイドリングストップ	◎	
・急加速の抑制	○	
・冷房の控えめ使用	○	
・買換え時は燃費マークを優先する	—	(目標達成) エコドライブが功を奏して目標達成となった。今後もエコドライブを継続する。
軽油使用量の削減		(目標達成)
・アイドリングストップ	◎	エコドライブが功を奏して目標達成となった。今後もエコドライブを継続する。
・急加速の抑制	◎	
・冷房の控えめ使用	◎	
・買換え時は燃費マークを優先する	—	
廃棄物排出量の削減		(目標達成)
(受入廃棄物のリサイクル率の向上)	使用量の削減	入荷受入れ品の全量の処理ができた。
・受入品の全量再資源化処理	◎	
・分別の徹底による有価物化	◎	
(一般廃棄物の削減)		(目標達成)
・一般廃棄物の全量再資源化処理	◎	一般廃棄物の全量の処理ができた。
水使用量の削減		(目標未達成)
・破砕機散水量の適正管理	×	節水に努めたが破砕機の稼働率がアップして散水量が増加したものである。適正水量を維持しつつ効率的運転で削減を図りたい。
・手洗水量の適正化	○	
・雨水の利用	×	
グリーン購入		実績調査・G対象品の調査を実施した。
	—	G事務用品の購入実績調査結果は「0品目」であった。これは、年度当初に一括して購入する事としているため、すでに購入済の中にはG品目はなかった。次年度からは調査結果に基づきG対象品を購入リストに加え購入を推進する。
・G対象品の調査	○	
・事務用品グリーン購入品目数の調査	○	
破砕処理における環境配慮(破砕機管理)		取組の適正実施により周辺より苦情もなく適正に管理出来ている。
・散水量の適正管理	○	
・破砕機点検整備	○	
・処理棟閉鎖管理	○	

VI. 環境関連法規等の遵守状況の評価の結果

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	遵守すべき要求事項(施設・物質・事業活動等)	遵守評価
廃棄物処理法	受入廃棄物の分別・保管・適正処分	遵守
自動車リサイクル法	使用済営業用乗用車、トラックの適正リサイクル	実績なし
家電リサイクル法	廃出時の適正排出(処理料金負担・適正ルート引渡し)	実績なし
自動車NOx・PM法	排ガス基準遵守・車検証確認	遵守
オフロード法	排ガス適合車両の使用(適合ラベル確認)	遵守
消防法(危険物)	・指定可燃物(RPF)貯蔵・取扱上の技術上の基準遵守 ・消防設備の設置・点検記録	遵守

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。

なお、関係当局よりの違反、訴訟、或いは環境上の苦情等も過去3年間ありませんでした。

VII. 代表者による全体の評価と見直し

2015年11月1日よりエコアクションに3ヶ月間取り組んだ結果、従業員の環境活動に関する意識の向上により、整理整頓の習慣が
つき以前より作業しやすい施設になりつつあります。
節電・節水など省エネ管理は従来より実施しておりましたが、エコアクション21認証取得を目指した取組みにより大きな成果が得ら
れるものと期待しています。又、従業員各自が責任感を持ち環境に配慮することが循環型社会形成の一翼を担う企業の従業員と
しての使命であると理解するようになったのは、大きな収穫です。
又、緊急事態の対応につきましてもウェス、吸着剤、吸着マット等など準備管理し、油類漏えいを想定した緊急事態に備える対応
策整備・訓練により、万全の態勢が整備出来ました。
取り組み始めて期間が短く、今後、経過を観察して行く必要が有ると思われませんが、試行運用期間に関しては電力使用量等目標
未達成項目があり、実効ある改善策検討・目標設定方法等課題もあり、今後もエコアクション21の取り組みを推進して、環境活動に
関する意識を高めてより良い方向で改善することによって目標達成できるよう日々、新たな気持ちで努力して参ります。

2016年2月10日

代表取締役社長 隅田 佳春